

「公印省略」

17病防第1号の5
平成17年8月3日

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予報第5号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成17年度病害虫発生予報第5号（8月）

【普通作物】

作物名	病害虫名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
水稻	いもち病(葉いもち・穂いもち) 紋枯病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	少ない やや多い 多い やや多い 並 並	少ない やや多い 多い やや多い 並 並
大豆	ハスモンヨトウ	やや多い	やや多い

斑点米カメムシ類は前年対比。

【普通作物 - 普通期水稻】

1 いもち病(葉いもち・穂いもち)

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、葉いもちの発病株率は0.1%（平成：7.7%、前年：11.0%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いと予想されている。（以下の病害虫についても同じ。）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が多いほ場では、早急に防除を行う。

イ 穂いもちの薬剤防除を実施する場合は、粉剤は出穂期直前、粒剤は出穂前処理となっており、剤型によって散布時期が異なるので注意する。

ウ 薬剤については「平成17年度普通作物病害虫防除の手引き」を参照する（以下の病害虫についても同じ）。

2 紋枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、発病株率は3.7%（平年：1.2%、前年：1.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂以降は病斑が上位葉へと進展するため、発生ほ場では出穂10～14日前に防除を行う。

イ 発生の多いほ場は、早急に防除を行う。

3 セジロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 7月1半旬～4半旬までの予察灯（4地点）での誘殺虫数は、715頭（平年：762頭、前年：40頭）であった。

イ 7月5半旬調査の結果、たたき落としによる10株当たり成幼虫数は78.0頭（平年：18.1頭、前年：11.0頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

移植時に箱施薬剤を施用していないほ場でセジロウンカが多い場合は、早急に防除を実施する。

4 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 6月6半旬～7月5半旬までの予察灯（4地点）での誘殺虫数は27頭（平年：26.7頭、前年：8頭）であった。

イ 7月5半旬調査の結果、たたき落としによる10株当たり成幼虫数は0.46頭（平年：0.17頭、前年：0.03頭）、発生ほ場率は23.2%（平年：12.7%、前年：4.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 要防除水準（ほ場における中老齢幼虫の発生量が、8月上旬は100株当たり20頭、8月下旬では100株当たり100頭）を超える場合は、早急に防除を行う。

イ 防除を実施する場合は、「平成17年度飛来に基づくトビイロウンカ発生予想パターン図」（病害虫発生予察速報第2号別紙）を参照し、防除時期を決定する。

5 コブノメイガ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、食害株率は4.8%（平年：6.9%、前年：4.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

防除を実施する場合は、「平成17年度飛来に基づくコブノメイガ発生予想パターン図」（病害虫発生予察速報第2号別紙）を参照し、防除時期を決定する。

6 斑点米カメムシ類

(1) 予想の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、すくい取りによる斑点米カメムシ類主要3種（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類）は畦畔で2.1頭（前年：1.2頭）、雑草地で4.0頭（前年：14.4頭）であった。カスミカメムシ類は畦畔で13.0頭（前年：8.2頭）、雑草地で19.7頭（前年：36.0頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 畦畔や休耕田の雑草は、カメムシ類の発生源となるので、出穂前に早めに除草を行う。

イ 防除適期は、穂揃期及びその7～10日後である。

ウ 防除を行う場合は、水田周辺の畦畔など、カメムシ類の発生源も含めた防除を行うと効果が高い。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予想の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月のフェロモントラップによる誘殺虫数は525頭（平年：443頭、前年：510頭）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

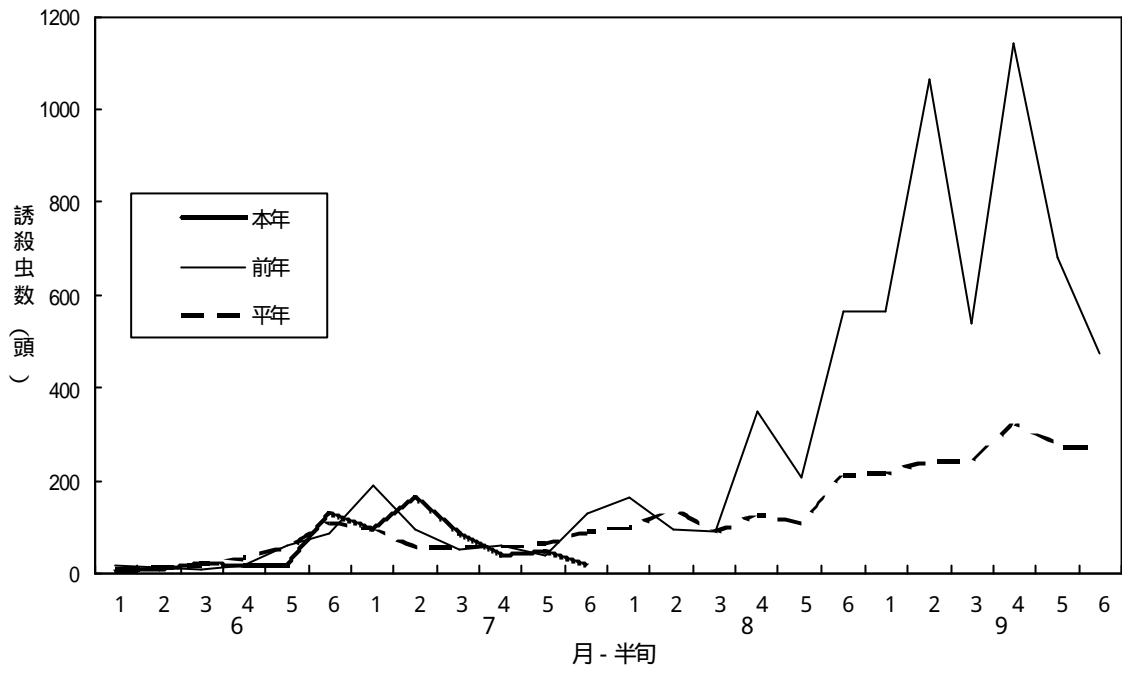
(3) 防除上注意すべき事項

ア 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。

イ 薬剤防除は効果が高い若齢幼虫期に実施する。

ウ フェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃が防除適期となるが、前後することがあるため、ほ場での白変葉の発生を確認し防除を行う。

エ フェロモントラップによる誘殺状況は、病害虫防除所のホームページを参照する。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移 (筑紫野市)

1: 7月1~3日は欠測 2 武田式乾式トラップ

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	やや少ない 多い 並	並 多い 並
ナシ	ナシヒメシンクイ ハダニ類	やや多い 少ない	やや多い やや少ない
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	少ない 少ない 多い 並	やや少ない やや少ない 多い 並
果樹共通	カメムシ類	少ない	少ない

【果 樹】

1 カンキツ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病果率は0.4% (平年：1.7%、前年：2.0%) であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている (以下の病虫害についても同じ) 。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源の枯れ枝を極力除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、前回薬剤散布後の積算降水量250mmを目安に降雨の間をぬって薬剤散布を行う。

2 カンキツかいよう病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、温州みかんの発病葉率は1.5% (平年：0.6%、前年：0.2%)、同発生ほ場率は18.8% (平年：5.8%、前年：11.8%) であった。

イ 同時期の温州みかんの発病果率は0.2% (平年：0.1%、前年：0%)、同発生ほ場率は29.4% (平年：6.9%、前年：5.9%) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 台風等の強風雨が予想される場合は、できるだけ事前に防除を行う。

イ ミカンハモグリガ幼虫の食害痕は、本病の侵入口となるため、ミカンハモグリガの防除を徹底する。

3 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、寄生葉率は11.5%（平年：11.4%、前年：18.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 ナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 7月1半旬～5半旬までのフェロモントラップ（県内3カ所平均）による誘殺虫数は、119頭（平年：82頭、前年：93頭）であった。

イ 7月5半旬調査の結果、被害果率は0.6%（平年：0.3%、前年：0.6%）であった。

ウ 気象予報では8月の平均気温は平年並が高く、降水量は平年並が多いと予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発蛾最盛期7日後を目安に防除を行う。なお、発蛾最盛期を過ぎても成虫が減少しない場合は、更に7～10日後に追加防除を行う。

イ 幼虫は主に果頂部から果実に食入加害するので、防除に当たっては、果実に薬液が十分かかるように散布する。

ウ 収穫期に入る品種は、農薬使用基準を確認し、薬剤の選定を行う。

5 ナシのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、寄生葉率は1.6%（平年：11.6%、前年：8.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

6 カキ炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病枝率は0.1%（平年：2.4%、前年：1.0%）、発

病果率は0.3%（平年：1.0%、前年：0.6%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並が多いと予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので除去する。

イ 発病枝の多い園では、降雨により感染が拡大するので、薬剤防除を徹底する。

ウ 樹冠内部の徒長枝に発病しやすいので、防除にあたっては薬液が樹冠内部にも十分かかるよう丁寧に散布する。

7 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、寄生果率は15.5%（平年：7.0%、前年：6.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生の多いほ場では、第2世代幼虫の発生時期である8月上旬の防除を徹底する。

イ ヘタの下や葉と重なった果実の表面などに、薬剤がかかるよう丁寧に散布する。

8 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

発生時期：後期発生型で9月～10月

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ

7月1半旬～5半旬までの予察灯（県内6カ所平均、以下同じ）での誘殺虫数は、7頭（平年：4,770頭、前年：28,608頭）、集合フェロモントラップ（筑紫野市吉木、以下同じ）での誘殺虫数は、3頭（平年：22,772頭、前年：70,036頭）であった。

イ ツヤアオカメムシ

同時期の予察灯での誘殺虫数は、6頭（平年：400頭、前年：1,386頭）、集合フェロモントラップでの誘殺虫数は、0頭（平年：165頭、前年：283頭）であった。

ウ カキ、ナシの被害果率

7月5半旬調査の結果、カキ、ナシともに0%（カキ平年：0.9%、前年2.0%、ナシ平年：1.8%、前年：6.4%）であった。

エ ヒノキ球果1果当たり口針鞘数

7月5半旬調査の結果、平均で0.8本（前年：5.1本、前々年：0.2本）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生は少ないが、今後園内への飛来に注意する。

イ 果樹カメムシ類の発生状況は病害虫防除所ホームページに掲載しているので参照する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病	やや少ない	並
	輪斑病	並	並
	カンザワハダニ	少ない	並
	チャノホソガ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	多い	多い
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少ない	並
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	やや多い

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病葉数は1.4葉(平年:3.7葉、前年:2.2葉)であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている(以下の病虫害についても同じ)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から3葉期までに薬剤防除を実施する。特に最終摘採後の芽は、来年の一番茶の母枝葉になるので防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する(以下の病虫害についても同じ)。

2 輪斑病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、発病葉数は0.2葉(平年:0.3葉、前年:0.0葉)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉や茎の傷口から病原菌が感染するため、三番茶摘採、刈り落としの当日、又は翌日に薬剤防除を実施する。

イ 発生園では新梢枯死症も発生しやすいので注意する。

3 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、寄生葉率は0%(平年:0.8%、前年:0.6%)で、寄生虫

数は0頭(平年：1.5頭、前年：2.2頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

4 チャノホソガ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、巻葉数は1.2葉(平年：1.9葉、前年：2.3葉)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

5 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年よりやや早い

イ 発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、巻葉数は1.5葉(平年：0.2葉、前年：0.0葉)であった。

イ 4月1半旬～7月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。

筑後市 1,064頭(平年：1,070頭、前年673頭)

八女市 1,950頭(平年：1,389頭、前年346頭)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は平年よりやや早い7月5半旬～6半旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

6 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均0.2頭(平年：0.7頭、前年：1.1頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上確認された場合は防除を行う。

7 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均7.1頭(平年：4.5頭、前年：5.9頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で10頭以上確認された場合は防除を行う。

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
イチゴ (育苗床)	炭疽病 ハダニ類	並 多い	並 多い
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 鱗翅目類	少ない 並 並 並 並	少ない 並 並 並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	並	並
野菜共通	オオタバコガ	並	並

1 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平成より多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、子株での寄生株率は9.8%（平成：4.4%、前年：16.0%）であった。

イ 気象予報では、8月の降水量は平成並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し初期防除を徹底する。

イ ハダニは摘葉するとその葉から急速に移動するので、摘葉した葉はほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れ密封して処分する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

九州北部地方（山口県を含む） 1か月予報

（7月30日から8月29日までの天候見通し）

平成17年7月29日

福岡管区气象台発表

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、天気のぐずつく時期があるでしょう。

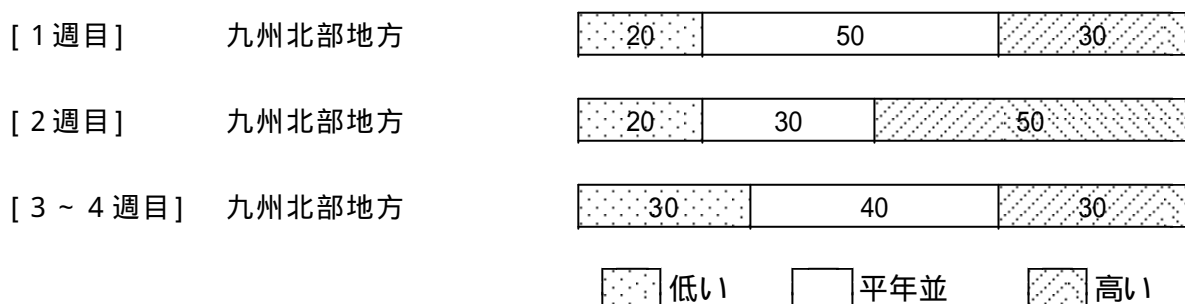
向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は高く、3～4週目は平年並でしょう。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％） >



< 気温経過の各階級の確率（％） >



< 予報の対象期間 >

1か月 ： 7月30日(土)～ 8月29日(月)

1週目 ： 7月30日(土)～ 8月 5日(金)

2週目 ： 8月 6日(土)～ 8月12日(金)

3～4週目 ： 8月13日(土)～ 8月26日(金)

< 次回発表予定等 >

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は8月5日

3か月予報：8月25日(木) 14時00分